

みえる鉄格子
みえない鉄格子.....

私達は自由でしょうか？



11/11 (木) 3時~ A-122 番教室

監獄支配を撃て！ — 刑罰法等全面再編阻止
に向けたシンポジウム

11月祭 関連企画 NF 刑法改正阻止・保安処分新構／拘禁二法を廃案へ！

〈連絡先〉
京大 751-2111
内線 7944

京大刑専法研究会

最近、刑務所内における不祥事件、例えば、暴行団員による銃の密造や、刑務所職員ともども覚醒剤汚染や賄賂の授受、さらに、非医師による抜歯や治療などなど、マスコミで大きな取り上げられています。これはどうやら、現在国会に継続審議扱いになっている拘禁二法(刑事施設法、留置施設法)の成立を促進しようとの世論操作の感があります。こうした監獄内のデタラメ支配は、ずっと以前から獄中者達を、そして日弁連の人権委員会などが告発しても、闇に葬り去られてきたことばかりだからです。

監獄法や省令を「近代化、国際化、法律化」といって、こうした状態がなくなるとも言いたげな法務省ですが、果たしてそうでしょうか。

拘禁二法の条文からは、施設の管理のためには、「医療」を施さるようになっていますが、獄中者の望む時に望むような医療は権利として明らかにされていません。増淵さんの例を出すまでもなく、獄中で体をこやし、刑罰のほかに更に与えた害悪付加が当然のことのように行われているのです。センセーショナルなマスコミ報道の中に、獄中の真の姿がはしくも表れられていることにこそ注目すべきです。

ひるがえって、獄中のことなんぞ知らないという(我々も含めた)あなた、この社会の中で自分達の望む医療が本当に権利として我々に保証されているか、考え直して下さい。差額ベッド、薬害、医療過誤、保険切り捨てなど...。鉄格子の向こうより格別に自由があるようですが、実は、この鉄格子の向こうとこちらには、同じような苦しむ人々の顔が見えてくるのです。管理の行き届いた、その実、非人間的な病院や、とくに精神病院は、監獄と非常に類似した様相を示すのも、そのためです。管理の行き届いた学園も、牢獄の思想之藪です。

鉄格子の向こうと、こちら側。向こうのことは知らないよと思っている(我々も含めた)あなた。見えない鉄格子を見破り、共に支配の構造を明らかにしてゆこうではありませんか。

[講師紹介]

^{ます} ^{みち} ^{とし} ^{ゆき}
増淵 利行 氏

全共闘運動に積極的に参加してゆく過程で、権力一瞥視庁によって当時「迷惑入り」がささやかれていた一連の「まじ」にデッチ上げられる。いわゆる「土田邸・白石ビル地下郵便局・ピース缶爆弾フレームアップ事件」である。

10年に及ぶ不当な未決拘禁と精神的肉体的拷問により持病のゼン息を悪化させ、一時は法廷に出ることさえできない状態におち入っていた。不屈の法廷闘争の過程で任意性のない警察側の調書の不採用や、「共犯者」の下りパイ立証などによって、この五月ようやく解放される。いわゆる牧田吉明氏による「真犯人証言」によって、マスコミに大きくとりあげられた「土・日・ヒ事件」だが、10年と及ぶ地道な法廷闘争を更に継続し、ねかにとるデッチ上げを許さない闘いを展開中。

^お ^の ^{さか} ^{ひろ}
小野坂 弘 氏

新潟大学法学部で、刑法・犯罪学を講義。欧米では近時非常に有かたなりつつある(ニュー・クリミ)ロジーを日本で展開されようとしている。

本学の吉岡一男教授(刑事学)とともに、この分野における気鋭の学者。大学で講義のかたから、地域での住民運動などにもかかわる。

60年安保世代。

<スライド同時上映> (予定)

「土田・白石・ピース缶爆弾
フレームアップ事件」

を撃て!